

原 著

アンケートによるイマチニブ服薬アドヒアランス調査

桑原英幸¹⁾, 高橋寛行¹⁾, 服部友歌子¹⁾, 大島理加¹⁾,
萩原真紀¹⁾, 酒井リカ¹⁾, 金子徹治²⁾, 森田智視²⁾,
石ヶ坪良明³⁾, 藤澤 信¹⁾

¹⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター 血液内科,

²⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター 臨床統計学,

³⁾ 横浜市立大学大学院医学研究科 病態免疫制御内科学

要 旨: イマチニブは慢性期の慢性骨髄性白血病の治療薬であるが, その効果は投与量と関連するため, 服薬アドヒアランスの低下は治療反応性を低下させると報告されている. しかし, 実際のアドヒアランスの評価は困難であり, 治療反応性との関連を調査するためにさまざまな方法が試みられている. 今回, 我々は通院患者に対して連結可能な匿名化アンケートを行うことによって, イマチニブの服薬アドヒアランスと治療反応性について検討を行った. イマチニブ初回投与からの期間が最低1年以上経過し, かつ通院中の患者にアンケートを送付した. 58名にアンケートを送付し回収率は82%であった. アドヒアランス低下を26%の患者に認めたが, アドヒアランス90%以下は4例のみであった. 今回の検討では既報告と比較して良好なアドヒアランスであったため, 治療反応性との関連は認めなかった. しかしながら, 服薬に対する理解を高めることがアドヒアランスの改善に寄与する可能性が示唆された.

Key words: イマチニブ (imatinib), アドヒアランス (adherence), 慢性骨髄性白血病 (chronic myeloid leukemia)